

氏名	和気 尚美
学位の種類	博士 (図書館情報学)
学位記番号	博甲第 7978 号
学位授与年月日	平成 29 年 1 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	図書館情報メディア研究科
学位論文題目	デンマークにおける公共図書館の移民サービス：越境を経験する職員と利用者を対象としたフィールドワークを中心に

主査	筑波大学	教授	博士 (教育学)	吉田 右子
副査	筑波大学	教授	修士 (図書館情報学)	修士 (教育学) 平久江 祐司
副査	筑波大学	教授	博士 (政治学)	溝上 智恵子
副査	筑波大学	教授	博士 (文学)	松本 浩一
副査	放送大学	教授	博士 (学術)	岩崎 久美子

## 論 文 の 要 旨

本論文は、多様な文化的背景を持つ者が暮らすデンマーク社会において、公共図書館が移民を対象に提供するサービスを、移民研究において近年分析軸として用いられるようになった越境の概念から検証したものである。

本論文は 7 章から構成される。第 1 章では、研究の背景と目的、先行研究、研究の課題と方法、概念規定、論文構成を提示し、研究対象であるデンマークの公共図書館システムの概要について論じている。第 2 章では、デンマークで移民の数が急増した 1960 年代後半以降に焦点をあて、公共図書館における移民サービスに関わる図書館行政の歴史的・制度的な展開を論じている。その中で、移民図書館 (Indvanderbibliotek) の設立、スカンジナビア諸国の図書館間相互貸借のネットワーク構築、文化局 (Kulturstyrelsen) による文化プログラム助成事業を移民サービスにおける重要な転機として指摘し、詳細に検討している。

第 3 章では、デンマークの公共図書館において移民サービスを提供する際の提供側の体制を、文化行政担当職員や司書を対象にしたインタビュー調査から明らかにしている。調査の結果として、文化局による図書館および関連機関への拡張的な助成事業による幅広いプロジェクトの実施、資料・専門的助言の提供に関する統合図書館センター (BiblioteksCenter for Integration) を起点とした関連機関の協力体制、移民サービスの提供に関わるネットワーク構造とネットワークを構成する関連機関の機能と相互関係について考察している。

第4章では、移民の背景を持つ利用者と同様の当事者性を持つ図書館職員であるエスニック・スタッフが公共図書館において担っている役割について、コペンハーゲンにあるナアアブロー図書館 (Nørrebro Bibliotek) に勤務する4名のエスニック・スタッフへのインタビュー調査から明らかにしている。調査の結果、エスニック・スタッフの豊かな言語能力と自身の越境経験を基盤にした利用者への支援がデンマークにおける規範の伝達に移民当事者の解釈を付与することを可能にしていたこと、利用者と出身社会での経験を共有することで相談者の移住先社会における閉塞感を緩和させる可能性を示していたこと、出身社会、デンマーク社会、移民コミュニティを接続するメディエーターとしての役割を担っていたことを明らかにしている。

第5章では、移民利用者の公共図書館に対する意識や図書館資料および館内施設設備の利用状況について、ナアアブロー図書館を利用している移民10名を対象にしたインタビュー調査からその実態を明らかにしている。調査の結果から、疎外感と閉塞感を癒す「安息の場」として図書館を利用している移民が存在すること、移民の出身社会での図書館利用が教育歴と密接に関係しており豊かな教育歴を持つ者ほど図書館を利用している傾向にある一方で、デンマークにおいて移民は教育歴とは無関係に図書館を利用していることを指摘している。さらに移民利用者が出身社会の文化や言語との接触の機会を持つために、出身社会とホスト社会との間を越境する場として公共図書館を利用すると同時に、デンマーク社会の規範の理解や言語の習得を目的に、移民コミュニティとデンマーク社会との間の越境を経験する場として、公共図書館を利用していることを明らかにしている。

第6章では、ナアアブロー図書館で展開されているデンマーク語「トーククラブ」、アラビア語「トーククラブ」「地域の母」の3つのプログラムについて、ナアアブロー図書館での参与観察を行うことで、移民が移住先での生活のどのような文脈で図書館プログラムに参加しているのかを明らかにしている。参与観察の結果から、ナアアブロー図書館のプログラムが非定型的な学習空間になっていること、デンマーク社会に対する肯定感と否定感の両者を提示する場になっていること、移民の背景を持つ参加者は図書館プログラムにおいて、出身社会の異なる他の移民との距離感を調整しながら接触していること、さらに参加者は、環境や状況に応じて図書館プログラムに独自に多様な解釈を加えていることを解明している。

第7章では第2章から第6章までの研究結果を整理したうえで総括し、3点を結論として導き出している。1点目は、デンマークの公共図書館は、移民が<出身社会-ホスト社会間越境>、<ホスト社会-移民コミュニティ間越境>、<異郷出身者間越境>という相互に重なり合う3種の越境を経験する場として存在していることである。2点目は、移民サービスの提供側は越境のマネジメントを行うことで、ナショナルレベルで設置された統合図書館センターとエスニック・スタッフの存在により、公共図書館において移民が<出身社会-ホスト社会間越境>、<異郷出身者間越境>を経験する機会を提供・維持していることである。3点目は、エスニック・スタッフは、<出身社会-ホスト社会間越境>、<ホスト社会-移民コミュニティ間越境>、<異郷出身者間越境>の3種の越境を経験することが可能で、公共図書館にとって移民の背景を持つ利用者の多様な生き方を支えるために不可欠な存在となっていることである。

最後に本研究がデンマークの公共図書館における移民サービスを公共図書館サービス提供者、移民の背景を持つ図書館職員、移民の背景を持つ図書館利用者の3者の視点から包括的に明らかにしたことを示し、今後の研究展開の可能性について論じている。

## 審査の要旨

### 【批評】

本論文では、デンマークの公共図書館における移民を対象としたサービスを、公共図書館サービス提供者、移民の背景を持つ図書館職員、移民の背景を持つ図書館利用者の3者の視点から包括的に明らかにした上で、近年の移民研究において分析軸として用いられている越境の概念から、移民サービスの全体像が明らかにされている。具体的には、研究課題1として公共図書館における移民サービスの変遷と提供体制の検討、研究課題2として移民の背景を持つ図書館職員の役割の討究、研究課題3として移民の公共図書館利用の解明の3点が設定されている。

公共図書館における移民サービスの変遷と提供体制については第2章と3章で扱われ、第2章では公共図書館における移民サービスに関わる図書館行政の流れや仕組みの歴史的・制度的な展開を考察している。続く第3章では、デンマークの公共図書館において移民サービスを提供する際の提供側の体制について検討している。移民の背景を持つ図書館職員については第4章で扱われ、コペンハーゲン図書館の分館であるナアアブロー図書館に勤務するエスニック・スタッフの役割と課題をインタビュー調査によって明らかにしている。移民の公共図書館利用については第5章と第6章で扱われ、第5章ではナアアブロー図書館を利用する移民を対象としたインタビュー調査と図書館プログラムの参与観察を通じて、移民の公共図書館利用について明らかにしている。第7章では第2章から第6章までの分析を踏まえ、「越境」という分析軸を用いて、デンマーク公共図書館における移民サービスをモデル化することを試みている。著者はデンマークの公共図書館が、移民が<出身社会-ホスト社会間越境>、<ホスト社会-移民コミュニティ間越境>、<異郷出身者間越境>という相互に重なり合う3種の越境を経験する場として存在していることを指摘している。そして移民サービスの提供側である公共図書館が統合図書館センターと、エスニック・スタッフを介在させることで越境をマネジメントし、移民が3種の越境を経験する機会を提供・維持するプロセスを、具体的に明らかにしている。さらにこうした3種の越境を経験することができるエスニック・スタッフが、移民の背景を持つ利用者の多様な生き方を支えていることを実証的に解明することに成功している。またエスニック・スタッフへのインタビュー調査を通して、移民サービスの現場で起る様々な課題を浮かび上がらせている。

本論文の研究を通じて著者は、多文化コミュニティにおける公共図書館の存在意義を、利用者とサービス提供者の双方向の力学が作用する複雑な関係性から考察し、個々の研究課題を検証することを通じて、公共図書館における移民サービスの全体像の解明という研究目的を達成している。特に先行研究では解明されていなかった越境の経験を持つエスニック・スタッフの実態の解明に正面から挑み、その役割と課題を明らかにした点において本論文は新規性があり、高く評価することができる。

研究手法に関して、図書館サービスの変遷と制度については文献調査を丁寧に行なった上で職員に対するインタビュー調査を行なっている。移民の背景を持つ図書館職員と図書館利用者へのインタビュー調査はアラビア語と英語の2言語を用いて実施され、調査対象者との信頼関係を築くための入念な準備に基づき遂行されている。また公共図書館プログラムにおける参与観察も十分な時間をかけて行なわれており、博士論文の研究手法として適切であると評価できる。

しかし、本研究に関しては、移民サービスの提供体制に関して、難民の移動により激変するヨ

ヨーロッパの政治的・社会的動向を射程に入れ、デンマークにおける移民政策の変化が及ぼす公共図書館の移民サービスについて、図書館政策と個々の図書館空間への影響を実証的に明らかにする必要がある。また公共図書館において実施されている、移民対象の各種プロジェクトの事業評価についても検討の余地がある。エスニック・スタッフについては調査範囲を拡大して調査することや、異なる世代の職員による意識の違いと図書館における役割の差異を精査していく可能性が残されている。利用者については複数のエスニック・グループや、複数の世代の移民を対象とする調査の可能性が挙げられる。また本論文で導出された複層的な「越境」の概念は、さらに精緻化される必要はあるものの、移民利用者と公共図書館の文化的緊張関係を描き出すためのフレームワークとなる可能性を示しているといえる。

本論文の研究結果を踏まえて、今後、エスニック・スタッフと移民利用者の図書館に関わる経験を、個人の生に密着した固有の言説として提示しながら、個人の自律性を深める文化装置である図書館固有の役割を導出していくようなダイナミックな研究への発展が期待できる。

以上から、本論文に示された著者の研究は、図書館情報学研究に大きく寄与するものと高く評価できる。

したがって、本論文は、学位論文として十分な内容をもつものと判断される。

#### 【最終試験結果】

平成 28 年 12 月 20 日、図書館情報メディア研究科学学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと、本論文について著者に説明を求めた後、関連事項について質疑応答を行った。引き続き、「図書館情報メディア研究科博士後期課程（課程博士）の学位論文審査に関する内規」第 23 項第 3 号に基づく最終試験を行い、審議の結果、審査委員全員一致で合格と判定された。

#### 【結論】

よって、著者は博士（図書館情報学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。